

平成20年度 西栗倉村 特別支援教育研修会

「発達段階に応じた支援のあり方」

進学・就労・社会参加

子どもの自立と幸せを支える 各学校園の役割

白ゆり保育園

石原 忍

【プロフィール】

- ・ 小学校教諭を23年（通常学級／特別支援学級）

【現在の主な活動】

- ・ 保育園（副園長）
- ・ 就学相談
- ・ 放課後学童保育（小1～小5）
- ・ 個別学習指導（発達課題のある小学生）
- ・ 保護者支援（ブログ・メール相談・進学・就労相談）
- ・ 学校園巡回相談（9月より）

【みなさんと共に考えていきたいこと】

- I 学校園本来の「集団での育ち」という機能の大切さに注目してみませんか

- II 個別の発達特性・認知特性に寄り添った指導実践から、子ども理解の精度を上げ、それぞれの担当での指導・支に活かしてみませんか

- III 「子どもの自立と幸せ」という視点から、各学校園の役割を整理してみませんか

I 学校園本来の「集団での育ち」という機能の大切さ

(1) 太郎君の言語の発達から

- 4歳 表出言語が少ない → 自閉症の診断を受ける
- 5歳 年長組 和太鼓のパフォーマンス

専任指導者の厳しい指導（みんなといっしょなら）

ごちゃごちゃ言わずにやってみる 何度もやらせる
変更はない 発表の場がある 評価される

- 絵画語彙検査 → 言葉の教室へ
- 涙の生活発表会 卒園式
- 通常学級 学童保育 表出言語の爆発的増加

I 学校園本来の「集団での育ち」という機能の大切さ

(2) ある保護者の言葉

「発達障害という枠組みの中に入り、その狭い枠で安定したとしても、この子が育ったとは思いません。幸せになったとも思いません。環境が変わって安定したのなら、この子が育ったことにはなりません。生きた集団の中で、この子らしさが発揮できてこそ、この子の成長であり、幸せなのだと思います。目先の学力や学歴ということではなく、人間社会の中で、当たり前の人とのかかわりの中で生きていく基本的な力をつけてやりたい。発達障害ということで、何をやっても無駄というなら、この場で死んだ方がましです。私は絶対にあきらめません。何としても、社会の中で、この子らしく生きていけるように、親として、できることはすべてやっていきたいと思うのです・・・力が入りすぎてはいけないと、わかってはいるのだけど・・・」

- ・ 花子ちゃん(小2) 小1 1学期 学校のスクリーニングから診断へ 脳波異常 動作性・巧緻性
形の識別・認知が苦手 通常学級(宿題・友達とのトラブル) → 特別支援学級

I 学校園本来の「集団での育ち」という機能の大切さ

(3) 社会性の育ちと子ども集団 (小1 太郎君)

年長組 → 背筋シャキッ 行動テキパキ

小1 → 運動会で土いじり

本を投げる 便所に隠れる 首をしめる

SST? → 〈学童保育 電車パノラマ破壊事件〉

特別活動は 世界に誇る日本の社会性育成プログラム
(生きた子ども集団 教育的な体験)

同和教育／学級づくり／先輩方の学級経営／教育のプロ

弱小チーム 夢 甲子園 予選でいいから試合に出たい 補欠でいいからバットを
振りたい たとえ障害があっても同じチームの一員として みんなを応援したい
おまえじゃダメだと 紙切れだけで 決めつけるのだけは こらえてほしい

Ⅱ 個別の発達特性・認知特性に寄り添った指導実践から

(1) 応用行動分析の手法を生かしたエラーレス学習 (効果を感じなければ、料金はお返しいたします)

- 即時強化の原則 (手応え・達成感)
- 無誤学習を支える必殺ヒントカード・プロンプトフェイディング
- 脳のネットワーク構成を意識して

(1回目は予告だけでもOK 3回目以降が勝負)

- 学習(行動)レポーターを見つけ、それを広げ、紡いでいく作業

(実践事例)

計算カード／漢字カード／へん・つくりカード／ひらがなカード

Ⅱ 個別の発達特性・認知特性に寄り添った指導実践から

(2) 認知特性を考慮した二系統同時刺激

- 継次処理と同時処理

(文字を読むのが苦手でも、映像の同時処理が得意かどうかは、わからない)

こつこつタイプ
一つずつ順番に
× ごちゃごちゃ

感覚・ひらめきタイプ
パノラマでいっぺんに
× ちびちび

- 文字情報、音声情報、映像情報
(得意なことをメインに、苦手なことを補助刺激に)

(実践事例)

計算カード → 数図ブロックカード → 指カード → さいころカード
「明」 → 「日」+「月」 「書」 → 「かぎ・横・横・横・横……」
草が○○ つりの○○ さおの○○

Ⅱ 個別の発達特性・認知特性に寄り添った指導実践から

(3) どうしてこれほどまでに子どもが喜ぶのかというとらえ
(手を振り、姿が見えなくなるまで見送ってくれる子ども)

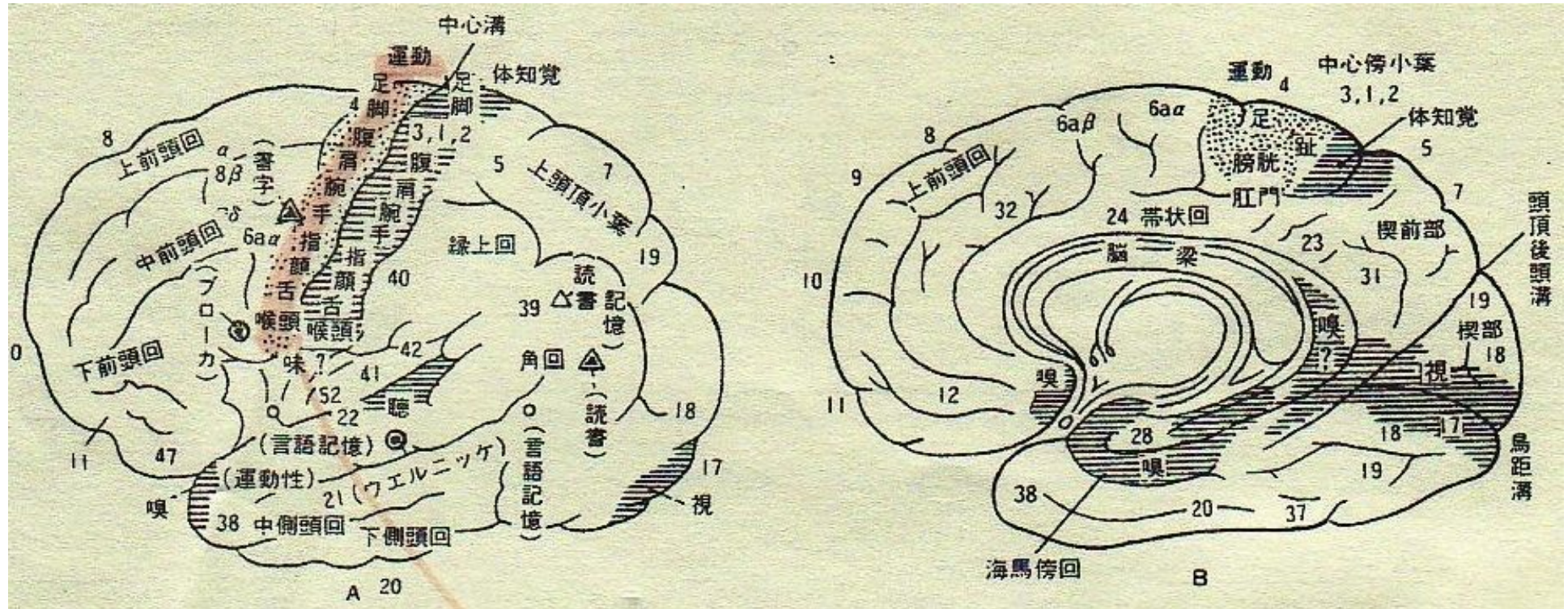
- 即時強化と振り返り (やったことは目で見てわかる)
- 間欠強化スケジュール
- ごほうび → フェイディング → 自己強化
(遅延強化) 内発性の達成動機
- メタ認知 → ストレングスの発見 → 自己の受け入れ
セルフエスティーム
- ご家族の絶対的な信頼感

(ブログ → キャラクターごほうび制度の行動改善の実践)

障害は、理解と支援で個性に変わる → 高山恵子流 超 ポジティブシンキング

Ⅲ 各学校園の役割 「子どもの自立と幸せ」という視点から

(1) 幸せって何？



大脳辺縁系＝人間の基本的な欲求

(生存の欲求: 食欲: 性欲: 集団への所属欲求)

Ⅲ 各学校園の役割 「子どもの自立と幸せ」という視点から

(2) 自立とは？（卒業後の人生の方がはるかに長い）

メタ認知力 自己有用感 社会性

☆ おかやま発達障害者支援センター 臨床心理士 今出氏の言葉（2008/7/2）

就労には、障害の種別・程度はさほど重要視されない。必要なのは、8時間働くための意欲・気力・体力・生活リズム、そして自分の特性と現実とをすり合わせる力である。

☆ 新潟アルビレックスの中野社長の言葉（2008/7/30）

- ① うそをうかない（→自分の特性・長所・短所を、きちんと受け止め、その上で自分の役割で全体に貢献するという認知の力）
- ② いいわけをしない（挑戦もしないで、やりもしないで自分で勝手に限界を決めない。苦手な事があっても、必要以上に特別扱いをしたり、甘やかしたりしない）
- ③ 人の悪口を言わない（集団の中の一員としてのメンバーシップを育てる）

☆ NTN高津部長の言葉（2008/8/1）

企業として収益性を重視する。企業の理念や社会的な貢献、イメージなどから考えても、障害者雇用は、十分に取り組む価値のあることと考えている。職員の採用に際しては、それまでの学校や保護者の子どもの自立に向けての熱意や努力の経過が、判断の大きな材料になる。

Ⅲ 各学校園の役割 (子どもの自立と幸せという視点から)

(3) 大切にしてきたことを整理してみると

子どもの自立と幸せ				
High ▲ 高 中 小 保・幼 ▼ Low	高	具体的な社会生活を想定した中での、能力・特性と現実とのすり合わせ	具体的な社会生活場面における社会貢献の意義と価値の体験 (プレジョブ)	具体的な就労先と計画持続・継続を可能にする余暇や楽しみの育成
	中	長所を発展させ、これなら行ける、というストレングスの育成	集団活動の場での、役割分担とその価値の指導 職場体験	主体者として親の育成 進学・就学に関わる情報の収集・整理と支援
	小	認知・能力特性の長所を中心に構成したカリキュラムの構成	君がいなくては、○組の活動にならない、という学級集団づくり (評価)	社会性に関わる課題点の整理、具体的なプログラムの共同作成 (保護者)
	保・幼	活動に取り組みやすい場の構成 (全面的な発達への刺激)	集団の中での明確な居場所づくり ほめてやれるお手伝い	保護者の状況の理解 いっしょに育てて行きましょう、という関係作り
	Low	メタ認知力	自己有用感	社会性
		自分の特性を受け入れた上で、強みを伸ばし、能力を鍛える。	集団の一員として受け入れられ、体験を通して、自分が集団に貢献できる自信と意欲をもつ。	ルールが遵守できる 継続的に取り組める 意思疎通ができる 支える環境がある
		(専門的・個別的な指導)	(通常学級との連携)	(保護者とのパートナーシップ)

特別支援教育に王道なし／100人いれば100通り／自分の個性と持ち味で
プロとして心をこめてていねいに／子どもの成長とご家族の幸せに 寄り添いながら